

第4回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 令和5年3月27日（月） 18:30～20:30
場 所 農村環境改善センター 大集会室
出席委員 金澤和彦、片山祐二、歌野裕美、下埜智加
欠席委員 飯沼かおり、中田洋介、保坂裕子、嶋崎陽介
アドバイザー 斉藤浩二
事務局 総務課長 中道真也、総務課長補佐 下浦強、総務課主査 竹村幸二、総務課主事 吉田彩乃

議 事

1 開 会 18:30

（中道課長）こんばんは。お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。
金澤会長から挨拶いただき、進行をお渡しします。よろしくお願いします。

2 会長挨拶

（会 長）来年度から景観計画の素案作りを行う予定ということで、やっと景観計画に向けて動き出すことになりました。今までの活動は、下地作りだったと思います。これから本気を出してやっていくことになります。村民の一人でも多くの方が景観を意識してもらえるようなまちづくりの輪を広げていきたいと思います。

3 報告事項

ー 竹村主査 資料1～資料5に基づいて報告 ー

（会 長）資料2の北海道みち学習については、おもてなしの心と風景が相まって魅力が高まるといった話をしてきました。子ども達に向けた景観の話をする機会は大切です、今後も力になればと思います。

資料5の黒松内町については、外からまちを訪れた人と交流しようというはっきりした姿勢でまちづくりをしていると感じました。町のシンボルをブナ一本に絞っていました。中札内村は「これだ」というシンボルがありません。街の賑わいは感じませんでしたが、だからこそ関係人口を増やすまちづくりとしているのかと思いました。

（委 員）中札内村は、観光に力を入れており、十勝平野や日高山脈などの観光資源はありますが一点推しのものはありません。黒松内町は、ガイドが紹介できるものとしてブナ林があって羨ましいです。中札内村でガイドを考えた時、一本山や山岳センターを活用できると良いのですが。

(会 長) 一本山を広く活用できると良いです。お金をかけなくても、新たに作るのではなくあるものを何でも使ったら良いと思います。

(委 員) 十勝の人は、素晴らしいものをもっていますが、利用が上手じゃないと言われることがあります。

(竹村主査) 今回欠席されていますが、保坂さんの黒松内町視察の感想の中に、地元の小学生の参加による森林整備のことが書かれています。

私が子どもの頃、学校の行事で「帯広の森」の植樹をやった記憶があります。村のふれあいの森で子どもたちが植樹する事業があっても良いかもしれません。

(会 長) この間の報告事項として1つ報告があります。9月22日に鶴居村からお話をいただき、鶴居村の景観に関する協議会発足に際して講演をしてきました。題材は景観づくりへの取組みと、自分が村民としてどう考え行動しているのかについてです。出席者は議員や観光協会、商工会の職員等でした。みんなでゴミ拾いなどをしていこうと連携を図る会のようです。

4 協議事項

ー 竹村主査 資料6に基づいて説明 ー

(竹村主査) R5は村の景観資源や魅力を外部の視点で調査・分析します。業者の選定については、プロポーザルを考えているところです。金澤会長、斉藤先生に審査員として入っていただこうと思っています。本素案は、鶴居村がR4から同様の調査を実施していることから、検討のたたき台として資料をいただきました。

(委 員) 景観計画策定に向けて、村民ワークショップやツアーに参加した人を味方につけていくことが大切だと思います。住民の皆さんは、景観を当たり前のように思っていてわかっていません。意見を出してくれる人を集めていかなければいけないと思います。ツアーの時だけ集まるボランティアではなく、集まって何かやろうというグループを作れると良いです。芽室町にはそういった集団がいます。また、忠類にもディスカバリーという団体があり丸山のヒカリゴケに関する活動をしていました。村でも、「ここに何々がある」といった情報を出してくれるメンバーと、それを吸い上げられる体制を作っていけると良いですね。難しいとは思いますが、ワークショップ関連を利用するなどして実現できると良いです。

「ずっと残したい“なかさつない”の風景」で集めたスポットをホームページ上で10～20か所ほど紹介出来たら良いと思います。この場所に行ったらその風景が見られるといった内容です。更別村のホームページにはこうしたページがあります。観光協会の仕事と重なるかもしれませんが。季節ごとの見所なんかも紹介できれば良いのではないかと思います。「ここを推したい」というものを凝縮して掲載するなど。今は紙の媒体で地図と連動しているものはありません。従来、紹介されている豆資料館などでは

なく景観委員会ならではのもの、じわじわくるものを紹介できれば良いと思います。

(委員) 観光協会では6か所くらいの写真とマップが連動するものを製作予定です。

中札内村の農村風景が美しいのは十分感じますが、街並みが美しくないのが残念なポイントです。観光に来た方が帯広方面から入って最初に見るのが、国道の街路樹のバツバツに切られた可哀そうな姿です。樹木のことを気になるのは、今年度の景観ツアー後に「はぐくむ」の別の講座に参加したのでその影響もあるかもしれません。美しい村と言っているなら、そろそろ市街地の樹木に目を向けても良いのではないのでしょうか。国道は村の玄関口なのにながかりさせる木の切り方だと思います。

(委員) 同様の話で、草刈の際にオオバナノエンレイソウが切られてしまうという話がありましたが、保坂さんが何度も草刈りの現場に立ち会って業者に言い続けることでバツサリ切られることはなくなってきたと聞きました。

(委員) エネオスと戸蔭大橋の間でゴミを捨てていく方がいます。決まった方です。「中札内って何？」と聞かれたとき、答えられるようなピカイチが弱いと思っています。村は「枝豆・トリ・卵」を推していますが、外に出たら知らない人もいます。ピカイチを売り出すなら「花と緑とアートの村」のキャッチコピーを変えても良いのではないのでしょうか。花づくりは高齢化していてあまり活発ではありません。そもそも、緑とは何のことでしょうか。農村風景なののでしょうか。アートは六花亭の施設でしょうか。

(会長) キャッチコピーを変えるのも良いですが、そこを目指すのも良いのではないのでしょうか。突き詰めていけばピカイチになります。

(委員) 新しく移住される方は、意識が高いと思います。メインストリートの国道沿いにある既存の建物でペンキが剥げているなどボロボロの物等について何か村から助言をする、費用がネックなら助成するなどしても良いのではないのでしょうか。これまでやってきた看板撤去もハードルが高いものでした。いきなり全部やるのは反発があると思いますが飴と鞭という考え方でどうでしょう。旅行で訪れたことがある美瑛町や恵庭市は、景観という目線で見ると、電線の地中埋設や街路樹整備などで中心部が統一されていてすっきりしている印象です。

(竹村主査) インターロッキングの補修がようやく進みだしているところで街路樹の話は言いにくいですが、ここを出た意見であることを踏まえ住民から言われているという伝え方をすれば言い出しやすいかもしれません。

(委員) 街路樹はもう少し自然に近い形で切っているところもあります。

(会長) 北電が電線にかからないように無償で切ってくれているはずですが、そうするとバツサリ切ってしまうのではないのでしょうか。

(委員) 街路樹の話は私も言おうと思っていました。元大正の街路樹も酷い状況です。一度、切っている業者の方に、「街路樹の管理についてどこに言えばいいですか」と聞いたらほぼ無視されました。あとは市街地の植栽についても気になっています。自生のものを選ぶか花の色を統一した方が良いです。プラスチックのプランターは時代にもそぐわないと思います。信頼できる先生方から言ってもらえたら進むのでしょうか。街路樹、植栽、建物、看板の統一感が大事だと思います。

みち学習の話について、自分の子が上札内小学校に通う予定なので是非上札内小学校でも実施してほしいです。来年度の上札内小学校は児童数の半分に当たる 11 人が本州からの子になります。新しい感覚の意見が出ると思います。

また、「ずっと残したい“なかさつない”の風景」について、色んな方が撮った写真を一つの印刷物としてまとめるのは無理があります。「みんなに愛される中札内」といった情報として出すのは良いですが、観光名所の紹介などに応募された写真を使うのは、村から出すものとしては勿体ないと思います。

中札内村の何か一つ推せるものについて、必要かもしれませんが、何もないというのも好きです。前の職場で自然に親しむ取組みがあり、富士の樹海を訪れたことがあります。富士の樹海と言っても樹海があるだけで後は何もないところでしたが、落ち葉の上をブレーキをかけずに走る体験や寝転がって見上げた青空が印象深いところでした。どこかの自治体で、星空を売りにするため、街灯を制限したという報道を見た記憶があります。

村で生まれた人は、魅力を魅力として思わないで享受しています。みんなで村の良さを大切にして、無いものを持ってくるのではなく、あるものを大事にするのが良いです。

中札内村は魅力的なところを全部持っている村だと思います。

(会長) 村は方針を打ち出していません。バランスを取ろうとしているのは分かりますが、「うちの村はこれで行く」という方針がありません。景観行政団体になったら、村のすべての評価軸に「景観」を付け加えるなどしても良いのではないのでしょうか。景観まちづくり委員会として言っていきたいと思います。令和 3 年に「市街地の景観に対する提言」を村長に提出する際も伝えましたが、わたしは村長を信じています。村議会議員から景観に関わる意見が出てきているのは意識付けが出来てきていて良いことだと思います。ゴミの話は、捨てられたゴミを放置したままにしている村民が問題です。ゴミを拾う行動が浸透していれば良い話だと思います。

(斉藤アドバイザー) 景観まちづくり委員会発足 10 年目。村長や議会にも認められて十勝で初めての景観行政団体に向けて進むことは喜ばしいことです。

当初のロードマップでは 3 年で景観行政団体に移行する予定でしたが、10 年という長い時間をかけたのも良い判断だったのではないのでしょうか。今後、プロポーザルで業者を決定することになりますが、景観計画は決して業者に作ってもらうものではありません。パートナーを得たと思ってほしいと思います。道内からいくつかの業者が候補にあがってくるとは思いますが良い企業を選びたいです。景観まちづくり委員の意

見をぶつけて任せられる業者です。「ずっと残したい“なかさつない”の風景」をどう料理するかプロに任せるのも方法の一つだと思います。国道の樹木管理の酷さをどう改善していくのかなどプロの助言をいただく。これまでとは委員会のやり方が変わりますよという覚悟を委員の皆さんに持ってほしいと思います。

私個人の意見としては、帯広開発建設部の樹木管理は酷いです。一方で「みち学習」をやっています。部署が違うというのは言い訳になりません。強く言い続けなければなりません。村長に提出した提言書を帯広開発建設部に出した方がいいです。帯広開発建設部が木を無くしたいなら中途半端に切るのではなく、さっさと殺して電線に支障がない場所に植え替えれば良いのです。強く言わなければなりません。

また、出来ない話だとは思いますが「ずっと残したくない風景」を集めたいです。内容が個人への攻撃になってしまう等から出来ないと思いますが。“残したくない”で考えてみたら、意外と意見にばらつきがでないと思います。

(会 長) デザインでは引き算も大事ですね。

(斉藤アドバイザー) 景観ツアーについてです。防風林は何年もかけて大事にするものです。でも農業の観点からの考え方とずっとバッティングしています。ツアーの講師は防風林のことを何か言っていましたか。学術的・景観的な大事さは分かりますが、経済的な視点で切られているので、対策をずっと考えているだけなら防風林は無くなってしまいます。

中札内の“ピカイチ”は、無くて良いと思います。何かを一つを挙げたら何か落ちてしまいます。黒松内町だってブナだけではないと思います。ピカイチは無くて困りません。そんなに沢山の人に来て欲しいのですか。畑と日高山脈。これは中札内村だけのものではありません。総合的に見て「このまちが最高」となれば良いのです。テーマを絞る事による分かりやすさにすがってはいけません。頑固に中途半端で終わらない景観づくりが必要です。ハードルを高くしてハレーションが起きても良いのです。最初は大変だけれど慣れて、それが当たり前になっていきます。中途半端で済ますなら他の町と同じ様な計画を作れば良いです。

(会 長) 95年に作成された計画では、まちづくりの柱は2つありました。一つは日本一の農業をつくること。もう一つは日本一美しい村を作るというものです。これは、今後、景観施策を進める根拠となります。どっちを取るかとなった時、中札内村は日本一美しい村を取ったのだと思います。

アートには農業も入るのではないのでしょうか。人間の営みによって生まれたものです。美しい農業ってあると思います。農家の人に聞いてみたいですね。

5 その他

ー 竹村主査 資料7に基づいて説明 ー

(竹村主査) 出来るだけ早く業者を決めたいと思っています。業者決定までのプロセスは、3社に依頼して書類審査を行います。その後、5月中旬くらいに選考委員会を開催し最終

決定する方針です。6月、遅くても7月には調査をスタートする流れにしたいと考えています。募集開始から選考委員会まで一定の準備期間は必要だとも思うので、なるべく早く募集をかけられるよう準備を進めます。ロードマップでは、令和9年度を景観行政団体の移行年としていますが、状況によっては早めても良いかもしれません。プロポーザルが終わった後に第5回の委員会を開く事を目途に考えています。

(会長) 以上で景観委員会を終了したいと思います。おつかれさまでした。

閉 会 20:30

【要旨】

- ・「ずっと残したい“なかさつない”の風景」で集めたスポットをホームページ上で10～20か所ほど紹介出来たら良い。観光情報ではなく景観委員会ならではのもの。
- ・街並みが美しくないのが残念なポイントである。観光客が村に入って最初に見るのが国道沿いのバツバツに伐られた樹木の姿。帯広開発建設部へ改善要望をするべき。
- ・中札内村には、「これだ」というシンボル、“ピカイチ”がない。
- ・テーマを絞ることによる分かりやすさにすがってはいけない。足りないことをレベルアップすれば良い。
- ・村は、バランスを取ろうとして「うちの村はこれでいく」という方針がない。景観行政団体になったら村のすべての評価軸に「景観」を付け加えるなどしても良い。
- ・市街地の植栽は、自生のものを選ぶか花の色を統一した方が良い。プラスチックのプランターは時代にもそぐわない。街路樹、植栽、建物、看板の統一感が大事。
- ・村で生まれた人は、魅力を魅力として思わないで享受している。みんなで村の良さを大切にしていって無いものを持ってくるのではなくあるものを大事にするのが良い。